

健太が生きた証し

震災知らない子へ

自分の命を守れるのは自分だけ



命の大切さを伝える絵本と田村弘美さん（左）、孝行さん。11日、松島町北小泉

「自分の命を守れるのは自分だけ」。東日本大震災の津波で銀行勤務の長男を亡くした両親が制作した絵本が増刷され、被災地の中学校や全国の図書館に寄贈された。震災後に生まれた子どもたちにも手にとってもらい、「命の大切さ」を考えるきっかけにしてほしいと願う。

両親制作の絵本、増刷



絵本は「ふしぎな光のしずくけんたとの約束」。2011年3月11日の震災で、女川町の七十七銀行女川支店で犠牲になった田村健太さん（当時25）の誕生から成長、震災で何があったのか、両親の思いなどを伝えている。父親の孝行さん（65）と母親の弘美さん（64）が原案や文を担当し、友人の協力で絵本に



絵本「ふしぎな光のしずくけんたとの約束」

被災地の中学校や図書館に寄贈

まとめ、24年3月に出版した。初版1千冊は寄贈や販売を終え、入手困難になっていた。新たに企業と公益法人の支援を得て、今年7月に1100冊を増刷。岩手、宮城、福島

の被災3県の公立中学校544校と公立図書館89館、全国の公立図書館59館に寄贈した。

当時、女川町では震度6弱を記録。海沿いの七十七銀行女川支店は、支店長の判断で13人が2階建て支店の屋上に避難したが、津波にのみ込まれた。救助された1人を除く12人が犠牲に。健太さんは震災から半年後の9月に海で遺体が見つかった。

田村さん夫妻は「どうしてもすぐ近くの山に逃げなかったのか。救えた命だった」。命の危機が迫った時は「自分の意見をはっきり言わなければならぬ。自分の命を守れる

のは自分だけなんだ」。一般社団法人「健太いのちの教室」を設立し、企業防災のあり方などを訴えてきた。

田村さん夫妻にとって残念なことが起きた。今年7月の熊本地震で、「イオンモール熊本」（熊本県嘉島町）で爆発事故があり、専門店の従業員7人が犠牲になった。テナントの雑貨店では、いったん避難した従業員2人に対し、運営会社の幹部が店長を通じてレジの売り上げを金庫に移すよう要請していた。

孝行さんは「従業員が巻き込まれたのは悔しいし、悲しい。従業員は逃げたいと思っただけで会社の指示があれば危機感がかき消されてしまう。企業は『命を守れ』『逃げろ』『安全を確保しろ』と指示すべきなんです。人命第一の取り組みを訴える。

健太さんの「生きた証し」となった絵本でこう伝える。「けんたが命をかけて教えてくれたこと。『大切な命を守ること』 未来につなげたい」（柳沼広幸）